

希望

令和6年1月9日(火)第11号
多治見市立笠原中学校 学校だより
多治見市笠原町 2455-12 TEL43-4165

新年のご挨拶に代えて ~安全・安心な「はあとふる」笠中を目指して~

校長 加藤 智夫

旧年中は、本校の教育活動に温かいご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。年も改まり、新たな気持ちで、164人の生徒たち、職員一丸となって「はあとふる」な学校づくりに邁進してまいります。どうぞよろしく願いいたします。



本来ならば新年のご挨拶を申し上げるところではございますが、令和6年1月1日、石川県能登半島地方を震源とする地震が発生しました。この地方でも長い時間、大きな揺れがあり、不安を感じられた方もおられたと思います。時間が経つにつれ、被害の甚大さが伝えられ、心が痛む年明けとなりました。謹んで、犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げると共に、被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。まだ余震が続く中、被災された皆様の安全と被災地域の1日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、こうした甚大な被害をもたらす自然災害を目の当たりにすると、この地方で今後発生が想定されている「南海トラフ地震」等、子どもたちの命を学校としてどう守っていくか、大きな課題を突きつけられた気がしています。

また、「ここは大丈夫だとは思うのは危険です！ 高いところへ逃げること！ 今すぐ避難！今すぐ避難！」と、叱るような強い口調で避難を呼びかけ続けたアナウンサーから、命について、自分がすべきこと、自分にできることについても考えさせられました。これは奇しくも、翌日2日に発生した羽田空港の航空機衝突事故の避難誘導時の客室乗務員の対応にも表れていました。

1. 確実に伝えること
2. 行動を促すこと
3. 予断を与えないこと



本校でも危機管理マニュアルを作成し、さまざまな場面を想定し、緊急事態発生時に備えてきています。今年度も4月には地震や火災を想定した避難訓練、9月には不審者侵入時訓練、そして今月には火災を想定した予告なしの避難訓練を行います。これらのことを通して、日頃から子どもたちの命を守るための校内の危機管理体制を確立していきます。

ふだん当たり前で過ごしている何気ない日常を「有難いこと」として捉えなおす機会としながら、今起っていることを教訓とし、子どもたちと共に安全・安心な「はあとふる」笠中を創り上げられるよう全職員で目指してまいります。本年もどうぞよろしく願いいたします。